



枝廣淳子の 賢者に備えあり 経済は成長し続ける 必要があるか

経済財政諮問会議の下に「選択する未来」委員会が設置され、一月三十日に初会合が開催されました。設置趣旨には根本的な問題意識として、今後半世紀、世界経済や人口など日本を取り巻く環境には大きな変化が予想されること、今後半世紀先までの構造変化を見据えつつ重点的かつ分野横断的に取り組むべき課題を抽出し、その課題克服に向け包括的に取り組みを進めていく必要が述べられています。

今後の構造変化の中でも最もインパクトが

大きいものの一つは人口減少でしょう。この委員会の資料にも、「現在の傾向が続けば、2060年には人口が約8700万人まで減少。2030年に、合計特殊出生率が2・1程度に回復する場合においても、2090年代まで人口減少は続く。少子化対策が急務。当面は、人口減少が続くことから、人口減少に対応した経済社会づくりが必要」と書かれています。

日本はこれまで少子化対策に力を入れてきました(成果は上がっていませんが……。少

子化対策は、人口減少という問題に対して、人口を増やすという根本的な対策であり、温暖化でいうところの「緩和策」です。

しかし、出生率が回復したとしても当面は人口減少が続くので、それへの備え(温暖化でいう「適応策」)も必要だということです。

この委員会での議論には、時期尚早で出てこないでしょうけれど、最終的に目指すべきは「定常型経済」だと考えています。

定常型経済とは「経済成長を目標としない経済」、つまり「資源な経済活動が繰り広げられるが、その規模自体は拡大していかない経済」のことです。「ゼロ成長経済」といわれることもあります。

「ゼロ成長」といっても、経済活動が止まってしまうわけではありません。自転車が同じ速度で走り続けていけば倒れないように、定常型経済では加速することなく経済活動を維持させることを目指します。どこまでも経済成長を続けることは、自転車のスピードを上げ続けるのと同じです。

経済の持続は必要ですが、経済規模が拡大し続けることは必要なのでしょうか？

こう書くと、「年金や社会保障はどうするんだ」「国の借金が返せなくなる」など、「だから経済成長が必要」という理由がたくさん並べられます。たしかにそうでしょう。

しかし、一方で、「このまま経済成長を続けることは可能なのか？」も考える必要があり

地球は有限です。有限の地球から無限に資源やエネルギーを取り出し、無限に二酸化炭素や廃棄物を戻し続けることはできません。

温暖化をはじめとする「環境問題」も、経済成長に伴って地球一個では到底支えきれないほど人間活動が拡大したという問題が引き起こしている症状であり、本質的には「経済問題」だと私は考えています。

加えて、人口減少・高齢化に伴う労働力の減少も経済成長への向かい風となります。労働生産性向上の努力を続けても、二〇三〇年までに労働人口が二割ほど減る中で、経済規模を拡大し続けるのは至難の業でしょう。

そろそろ「経済は成長し続けなくてはならない」という「集団思い込み」から脱却して、地球の限界や人口減少、そして、経済成長が私たちの幸せを増やすどころか損ないつつある事実を直視する必要があるのではないのでしょうか。

そして、「果たしてそれは可能か？」という問いを拒否して、「今の仕組みを保つために経済成長は必要だ」と思考停止するのではなく、「必要だと思っても不可能なこともある」ことを受け入れ、「経済成長に頼らなくても良い社会」に向けて、社会保障をはじめとする社会や経済の仕組みを根本的に変革していくべきではないでしょうか。

定常型経済へのソフトウェアングを社会全体で考えていく必要があります。

(幸せ経済社会研究所所長)